



美しい田園と筑波山

特養入所の四季

施設長 小川内秀樹

真夏の太陽の下、ひまわりではなく、黄金の穂が、熱風の注ぎに揺られ、田んぼ全体が、海のように波を打つ。施設の周りは自然が多く、夕暮れの空に、雲と青と紅の空気が混じりあう。とても美しい風景だと思う。入所すると、その生活の延長線上に、行き着く先には亡くなるという事を見込む。あえて言うならば、その時点で看取りが始まっていると思っても良いと思う。なぜなら、亡くなる寸前に、家族と私たちにできることは、ほんのわずかだからだ。ようやく入所ができて、安心するのは当然のことであり、春の暖かさを感じている時に、冬支度を急いでするようなことは無い。ただ、一年は、あつという間だ。高齢になるという事は、間違いない体が老いるという事であり、年単位で進んできたものは、月、週単位となり、その日、その日となる。その為、施設に入ったら、できるだけ、楽しみや交わりのある生活を送り、安心と笑いのある時間を過ごす事が、その方の人生そのものになるのだと思う。「一瞬に見た夕日、散歩の肌を感じる秋風、何気ない会話の笑い、共に悲しむ涙、痛みを分かち合う思い、日々の思い出し、つまでも残るものは、信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」(聖書)

八月のボランティアと実習生

山田国昭様 風見とみ子様 矢花光様 大塚満様 協力牧師の方々

いつも楽しい働き ありがとうございます。



(NO.362) 特別養護老人ホーム 筑波キングス・ガーデン 0297(24)5139



廣瀬 昇様

長男 廣瀬 進様

父は若い頃、自営業 自転車店をしてくださいました。昔は繁栄したそうです。陽気な性格と話好きなので、客人が途切れませんでした。趣味は、魚釣りで近くの川に釣りに行っておりました。毎日、朝早く起床して近くの川に釣りに行っておりました。

筑波キングスガーデン、デイサービス利用はじめの時は、行くのをかなり嫌がっていましたが、徐々に行くのが楽しくなり、早く迎えに来ないかと何時も外に出て待っていました。ショートステイ利用時には、病院受診時、迎えに行くと、喜び、送って行くこと、家の方向と道とを怒っていました。月日がたつにつれ、送る時は、自ら、キングスガーデンの玄関に歩いて行くようになりました。本人にとって、キングスガーデンは、悪いの場と思っていないようです。

お知らせ

認知症が題材の本格的な舞台劇「ペロロスの母に会いに行く」 皆様にご紹介させて頂きます。

日時

平成三十年十月十日(土) 十三時開演/十四時開演

場所

常総市地域交流センター(豊田城) 自由席 3000円(税込)

お問い合わせ

常総市高齢福祉課 支援係 TEL 0297 23 2930



認知症介護を通じて

改めて親子の絆を考える

皆様のお越しを心よりお待ちしております！

新規採用ヘルパー紹介

虹の架け橋 介護ヘルパー 喜木利治



精一杯 頑張ります！

虹の架け橋 介護ヘルパー 眞瀬理恵子



みな様のお役に 立てるよう日々 努力します。

編集後記) 涼しくなってきましたが、台風などの災害には注意していきましょう。備えあれば憂いなし。今秋も元気に楽しく過ごしましょう。 ヘルパー 高橋 浩・野田 隆

相談員日誌

飯山 佳成子 あれ、見た事ある顔だなあ。職員さんはどこから来てるの？ K様と顔を合わせると、決まって尋ねられる。あら、筑波山の方なの。遠いな。筑波山は友達とよく遊びに行っていた。三輪車に乗って行くんだ。あそここの温泉は良かったな。今はもう駄目だな。おぼろげに覚えてる。百歳になるんだと、オレは。何でも忘れて、死ぬのも忘れちゃったんだわな。アハハ。あれ、職員さんはどこから来てるんだっけか？ 自由奔放で気が強く、開く時に大変な事も多いが、前向きで明るいK様の笑顔に、自然と周りも笑顔になる。職員さん。オレは、ここでみんなのお世話になって幸せだ。本当だよ。」

特養では九割近くの方が認知症であるが、穏やかな雰囲気の中で過ごせるのは、利用者皆様の人柄によるものが大きいと思う。支える私たちが、許して頂いていることも沢山あるだろう。それを忘れてはいけない。これからも、個性豊かな皆様を守り、楽しい思いが尽きない様に、日々丁寧丁寧に関わりを続けていきたい。

サマーフェスティバル

ヘルパー 木村美香

八月十日に、サマーフェスティバルを行いました。連日猛暑の日が続き、当日も暑さが心配でしたが、今年度は暑さ対策の為、開始時間を二時間遅らせていただき、雨も降ることなく、無事終了された事に感謝致します。当日、ご利用者にはアロハシャツを着ていただき、南国の雰囲気味わっていただきました。当日は、やさそば、フランクフルト、かき氷等、様々な出店を出店しました。各ご利用者、おいしい」と完食して下さいました。各ご利用者、おもしろい声も聞かれました。と声をかけさせていたたくと、どのご利用者も、「いいですよ」とカメラを向けると、つこりと笑顔を見せて下さいました。今年も楽しんでいただけ良かったです。またひとつ思い出が増えました。



美味しいな～



アロハで夏気分！



暑い日は かき氷



ご家族と一緒に

主よ。なんと幸いなことでしょう。あなたに信頼するその人は。 詩篇84編1の節

九月のお誕生日

野澤千枝子様 昭和八年九月十七日 六十五歳

お誕生日おめでとうございます。

いっしょにでも起こる災害に備えて 理事長兼総合施設長 宇都宮和子

三年前の九月六日、鬼怒川の氾濫と同時に常総市は水で溢れ景色は、橋の下まで水が溢れ、自宅に帰れず水の怖さを体験する。同時に生活困難な高齢者、障害者二十九名施設で受け入れ、多くのボランティアに支えられ三カ月、共に生活したことも忘れない。そんな思いの六日の早朝、北海道に震度七の地震、自然の山々が崩れ落ち、人家を巻き込み、命が奪われました。茶色い肌に変った山々の地層は自然の怖さを表している。その厳しさの中に、自衛隊や消防隊員の方々が駆けつけ、時間と戦いながら救助作業をしている姿に、いつも感謝とプロ意識を感じます。本日に美しい日本、海に囲まれている日本は、雨・風・地震津波が何時どこで起こっても不思議ではない。障害者高齢者二百名の方々と共に生活している中で、水、電気は本当に大切、緊急時を想定し環境、備品のチェックです。これからは常総市と連携を取りながら、災害時には地域の皆様を支えられ、又支えて行けるよう日々の準備をしていければと思います。